

# JAAC だより

## 留学生に求められる人間力とは（最終回）

～ 大学生生活（留学生生活）は“人間力”を養う場でもあります ～

今まで3回に渡って連載してきました“留学生に求められる人間力とは”も、今月号で最終回を迎えました。今回の最終回編では、今まで皆さんと一緒に考えてきた事を振り返りながら、留学中に身に付けるべき“人間力”とは、という課題についてのまとめを行っていきたいと思います。この機会を通じて、皆さんに“人間力”について考える時間と機会を提供できたとすれば、私にとりましては幸甚です。

中学生時代の14～15歳位から大学を卒業して2～3年を経た年齢である24～25歳位までを青年期と言っています。このことから、JAAC生の皆さんは青年期の後半をアメリカでの留学中に過ごすこととなります。18歳から22～23歳位までのこの時期は、実社会に出る準備期間として最も重要な時期となることでしょう。一般的に、この時期は『自分さがし』の時期と言われています。この時期を通して、自分の長所や短所を見つめ直したり、性格的言動における協調性、外向性、内向性、積極性などと言った自分自身のあり方を改めて発見し、それらを認識します。そのプロセスの中で、「自分はどんな人間なのか」、「どんな性格の持ち主なのか」、「将来、何をやりたいのか」、「どんな職業に就きたいのか」、等々と言った事を自問自答することでしょう。その結果、「自分は一体何なのか、誰なのか」という答えを導き出そうとします。これを『自我同一性（自分自身のアイデンティティー）を確立する』と言います。

皆さんが小さいころ、男の子であればヒーローに憧れたり、プロ野球選手やプロサッカー選手になりたいなど、いわゆるカッコいい職業に就くことを夢見たりしますよね。女の子はお嫁さんになりたいとか、ケーキ屋さんになりたいとか、夢見る自分の将来の姿も可愛いものがありましたね。自分の年を重ねるごとに、徐々に現実というものを知り、自分の将来の姿が少しずつ明確に描かれてきます。大学生となった皆さんは、今自分たちが生きている社会の現実を目の当たりにして、いよいよ自分の将来の姿を描く最終段階に入ってきました。自分の将来の姿が見えてきているからこそ、そのために今、皆さんは自分の専攻を大学で学んでいるのではないですか。言い換えれば、この時点で皆さんは将来における自分と社会との関わり方を決めた、ということなのです。自分が就こうとする職業から、社会に対する自分の役割を定め、自分自身の価値についても確信したことになります。でも、このステージにたどり着くまでは色々悩んだことでしょう。『本当は・・・になりたいと思ったけど・・・』、と自分が思い描く真の将来の姿を諦めざるをえなかった人も多いと思います。自分自身のアイデンティティーを確立するということは、自分の持つ色々な可能性を切り捨てるということでもあり、時として辛い選択を迫られるものですね。

今まで本紙で皆さんと一緒に考えてきたことの中で、留学生ゆえに背負ってしまう日本語力の低下という問題や、大学時代に養うべきリーダーシップの執り方と協調性などは、自分のあり方を見つめる上でとても重要な要素です。これらを踏まえた上で、『では、自分ならばどうするか』ということを考えて、自分なりの克服策を見出さなければなりません。また、将来、必ず他人と交わり、公私共に“人”と関わることは必然的です。そのためにも、相手の気持ちを考えての言動ができるような人間に成長することが大切なのですね。ありていな言い方ですが、それが『大人になる』ということかもしれません。

このように、自我を確立する上で大切な時期としての大学時代があります。皆さんの場合は、アメリカでの留学時代がそれにあたりますね。この時期に自我を確立するということは、単に就職のために、と言うことではなく、自分が社会に出て、社会の一員として自分の役割を果たすため、というようにもっと広い意味においてとらえるべきものだと思います。いかに自我の確立ができたか、ということが、その人の“人間力”を問われるものとなるでしょう。

『まだ学生の身だから・・・』というエクスキューズ（言い訳や弁解）は、場合によってはその人の自我の確立（アイデンティティーの確立）を先延ばしにすることにもなります。これを『心理的モラトリアム』ということばで現します。親元を離れて一人暮らしをしている留学生は、時としてこのような状況に陥りやすいとも言われています。自我を確立し、本当の自分を見出すまでに費やす時間は人によって異なるものです。しかしながら、それを確実に大学時代のうちになし終えておくことを目標にしてください。そのための、大事な大学時代なのでから。（完）

（カリフォルニア担当：照井）

## コラム：「アメリカが変わる」

(カリフォルニア事務局：照井)

### ～ 初のアフリカ系アメリカ人大統領の誕生 ～

私がアメリカに留学した1976年という年は、アメリカ建国200年を迎えた年でもありました。今から30年以上も前のことですが、当時はお祭りムードにも似た“建国200年祭”を祝う様々なイベントが開催され、その場に居合わせた経験は今でも私の財産と言って良いでしょう。今、アメリカにいるJAAC生はそれよりももっと貴重は歴史的体験をしますね。最近まで行われていた共和党と民主党による大統領予備選挙では民主党が勝利し、しかも、民主党から選出されたのは初のアフリカ系アメリカ人でした。特に、注目されていたのは、民主党の大統領候補が“初の女性”対“初のアフリカ系アメリカ人”で争われたことでした。そして、ついには“初のアフリカ系アメリカ人”が第44代アメリカ合衆国大統領として来年1月に誕生します。

未だに人々の心の中に存在する人種問題は、アメリカが潜在的に抱える問題の一つと言えるでしょう。そのような社会的背景の中で誕生する新大統領の役割は、単に国を治めるというものではないはずです。アメリカでは、大統領は“国の象徴”でもあります。したがって、今回の選挙の結果が世界に与えた影響は多大なものと考えられますね。今までのアメリカという国では、決して考えられない出来事でした。このような歴史的瞬間を身近に体験し、そして、直接その国に居合わせることでできるJAAC生にとって、それは何事にも言い尽くせない貴重な財産となることでしょう。皆さんは、歴史上の史実の生き証人になるのです。

## カリフォルニア通信

(カリフォルニア担当：照井)

**【留学生を襲った悲劇】**先月号のJAACだよりでもお話しした、日本の留学斡旋会社“ゲートウェイ21社”の無責任とも言うべき業務の犠牲者がここアーバインにいらっしやることになりました。その学生はUCI(カリフォルニア大学アーバイン校)で勉強をしているのではありませんが、とても他人事とは思えません。自分の夢を叶えるために、一生懸命に貯めた留学費用を支払ってアメリカに来てみたら、授業料等が支払われてなかったり、また、支払われていると思っていた全留学期間分の授業料が半期分しか支払われていなかったりと、様々な痛々しいケースが続いています。JAAC生の留学プログラムは、授業料等の支払いにおけるシステムが異なるプログラムですが、それを以って安易に安堵する気持ちにはなれません。同社には、本当に困っている留学生の置かれている境遇と気持ちを理解し、早期の解決に努めていただきたいと願うばかりです。

**【増えるインターンシップ希望者】**留学生の親御さんには耳慣れないことばかもしれませんが、アメリカの学生達が常に興味を持っていることの一つに“インターンシップ(又はインターン)”という制度があります。アメリカの大学では、専攻科目によっては卒業までにある一定の期間を企業などでの実務経験を課せられます。一般的には、自分の専攻に関係する業界や、将来、自分が希望する職種の業務経験を行います。日本の大学とアメリカの大学の授業のあり方で最も異なる点は、アメリカの大学での履修内容は実務に基づくカリキュラムで構成されている、という点だと言えるでしょう。それゆえに、4年制大学の卒業生(学位取得者)は企業内でも即戦力になり得る、と言われてます。もちろん、JAAC生もその例外ではありません。専攻している科目によっては、3年生のうちから多くの時間をインターンに費やすことがあります。また、インターンが必須ではない学生においても、卒業までにインターンを経験して、少しでも将来の就職を有利にしたいと考えている学生も少なくありません。自分に合ったインターン受け入れ先を見つけるのは容易ではない場合もあります。JAACカリフォルニア事務局では、インターン受け入れ先企業などを探す支援サポートも行っておりますので、是非、ご相談ください。

## ミズーリ通信

(ミズーリ担当：ライマン・ピットマン)

**【学生生活の今昔物語】**私の大学時代は何年も昔のことですが、今ここサウスイースト・ミズーリ州立大学で学んでいるJAAC生も、その昔、私が過ごしたコロラドでの大学時代と同じようなことをしているんだなあ、と思うことがあります。確かに、時代は大きく変わりました。私の学生時代には、コンピューターは冷蔵庫がギッシリ並んでいる部屋のような感じだったし、文章を作成する際はタイプライターを用い、誤字の修正は今のようには簡単ではありませんでした。もちろん、携帯電話なんて存在していません。そして、時代と共に洋服のファッションも変わりましたね。

時代は変わっても、学生のあり方は私の時代と同じような気がします。当時の私が不平や不満を持っていたことと同じことに不満を持ち、学校の先生について話す内容も当時の私と同じです。例えば、心理学専攻の学生でなければ、心理学をあまりおもしろい科目とは思わないでしょう。レポートを作成する時には、タイプライターからパソコンに変わりましたが、午前3時ごろに提出期限を気にしながらレポートを書いている姿は今も昔も変わっていませんね。技術は進歩しても、歴史の試験勉強のやり方にはあまり関係ありません。

学寮の中でうるさく騒ぐ様子は、今も昔のまま。21世紀の学生もやはり、20世紀に生きた学生同様にルームメイトをイライラさせては怒らせているようです。また、学生達が午後になるとコーヒースhipに集まり、若者同士の会話に話が弾んでいる姿も変わりません。ある時、こんな私以上に洗濯のやり方を知らない一人の男子学生が、洗濯したら洋服が縮んでしまったという話をしてくれました。私も彼と同じような状況の中で同じ経験をしたことがあると、彼に話しました。それはまるで、私が学生時代に交わした何気ない会話と一緒に話した。ただ、そこには30年という時代の隔たりがあっただけです。

JAAC生が大学での学生生活で経験することは、多くのアメリカ人学生も同じように大学で経験するものです。JAAC生もアメリカ人学生も、これら学生ならではの経験を共有することにより、国際交流の第一歩を果たしていくことができるのでしよう。

**一期一会** 今月末に次男が10ヶ月ぶりに我が家に帰ってきます。次男は今年の1月からオーストラリアに留学していて、メルボルンの高校に通っていました。留学した当初は、現地のホストファミリーや高校で上手くやっていたのかなぁ、と留学生を持つ親御さんの皆さんと同じ不安と心配を抱えておりました。それにしても、メールというのは本当に便利ですね。いつでも、どこでも息子と連絡が取れるんですから。それに、今は簡単に、しかも、安価な料金で国際通話が可能になりました。

本当に、便利な良い時代になったものです。実は、次男がお世話になっているご家庭の息子さんも高校交換留学生として日本に留学しているのです。次男のホストマザー（受入家庭のお母さん）は高校の教師で、今年の夏に勤務している学校の生徒を引率して日本に来日しました。その際に、家内が何とかお会いする機会を設け、留学生の子供を持つ母親同士で色々話をしたようです。去年まで知らない者同士が、今ではお互いの家族がお互いの子供達の親となり、家族になっています。（照井）

## Siesta ちょっと、一休みしませんか…？

### ～ 「読書のススメ」 ～

私は某出版社を通じて、海外旅行者向けの英会話本を書いたことがあるのですが、先だって、その出版社の方とお会いしたところ、とても興味あるお話をされていました。それは、今の人たちは活字離れが進み、多くのことばに触れる機会が減ってきていると同時に、小説などを読む事から得られる“想像力”が弱くなってきている、ということでした。以前、幾つかの大学の先生方や就職課の方々とお会いした際に、同じようなお話をされていたことを思い出しました。確かに、パソコンの普及により、文章を作る際には正しく文字変換が行われるので誤字が少なくなりましたね。しかしながら、それは漢字を書けなくしていることでもあります。また、インターネットのお陰で、従来は本（文字）で調べていた事柄を、単に“入力”するだけで、文字や絵、写真やイラストなどで詳細にその事実が説明されている箇所を探すことができます。つまり、想像しながら調べるというプロセスを飛び越して、いきなり“答え”を見つけてしまうのです。小説などを読んでみると、その文章から多く事を想い描くようになり、とても楽しいものですよ。1ヶ月に1冊位は本を読んでみませんか。

## Help Line

### FAQ

#### 「州外の大学への編入や転校は不利になりますか…？」

**A:** 一概にそうともいえませんが、確かに、今まで取得した単位を全て編入先や転校先に移行できるとは限りません。その意味においては、若干、不利になるとも言えるでしょう。ミズーリとカリフォルニアのJAAC生とでは編入（トランスファー）の方法や、そのタイミング（時期）は異なります。また、州外の編入先大学が州立か私立かによっても、編入方法が異なります。編入とは、今まで通っていた大学から違う大学に転校することとほぼ同じ事ですから、双方の大学で互いに単位を認め合う制度（単位互換）がどの程度確立しているかを確かめることが大切です。編入や転校を考える時は必ず事前にJAACのカウンセラーに相談してください。そして同時に、今通っている大学のカウンセラーにも必ず相談をしながら、編入（転校）先の大学が課している諸条件を確認してください。

**【編集後記】** ● “ゲートウェイ 21 社” の倒産によって被害を受けた留学生をアーバンで目の当たりにするとは思いませんでした。彼らにとっての解決策が早く見つかるとうれしいと願っています▼アメリカ大統領に初のアフリカ系アメリカ人となる。これはどえらいことだと思う。こうして考えてみると、やっぱりアメリカという国のすごさを感じざるをえない◆★フリーウェイ走行中の携帯電話利用による事故が後を絶たない。これは日本でも同じこと。一人ひとりの意識が変わらなければいけないね▲アメリカの大学での勉強や、学生のライフスタイルは今も昔も基本的には変わっていないと思う。パソコンの発達によってレポートを作成するにもずい分と便利になったものだ。その反面、パソコンがなければ何もできないけどね■確かにパソコンの普及も手伝い、最近の人たちは本を読まないよね。私なんか活字人間だから、電車の中や飛行機の中では雑誌や本がなければいられない。かと言って、難しい漢字が人よりも分かるわけではないけどね。それとは別に年を重ねると想像力が乏しくなるものだ。できれば20代の頭と交換したい。（照井）

## Let me remind you . . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

■ジョブフェアのご案内： リクルート東京キャリアフェアが12月（12月20日（土）・21日（日））に東京で開催されます。詳しくは、<http://kaigai.rikunabi.com/tcf/index.html> をご参照ください。

◆年末年始に帰省される皆さんへ： 年末年始を日本で過ごされる皆さん、帰国の計画は立てましたか？ 航空券の準備は大丈夫ですか？ アメリカへの再入国時に必要な入学許可証（I-20）も忘れずに学校の事務局で取得してください。

▲運転中の携帯電話の使用は禁止ですよ！！： 今年の7月からカリフォルニア州でも運転中の携帯の使用は禁止されています。フリーウェイでの運転中の携帯電話使用が原因による交通事故が多発しています。運転には交通規則を守り、くれぐれも安全運転を心がけましょう。“大切な自分の命はたった一つです。”

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

©JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)